

対象規格	JEAG4601-1987 「原子力発電所耐震設計技術指針」
質問	原子力発電所耐震設計技術指針(JEAG4601)-1987 の P722 にある「図 6.6.3-41 曲がり角と振動数係数の例」において、実線と点線はそれぞれ何を意味しているのか？
回答	<p>質問にある図 6.6.3-41 は、原子力発電所耐震設計技術指針 JEAG4601-1987 の「第 6 章 機器・配管系の耐震設計」、「6.6 応力・強度解析」、「6.6.3 B 及び C クラス機器」の中の、(2) 配管 b.支持点の設定 (a)振動数基準定ピッチスパン法 ()曲がり部の支持 に掲載されている。なお、P720 の図 6.6.3-41 を説明した部分で、参考文献番号を(6.6.3-4)としているのは(6.6.3-5)の誤記である。</p> <p>図 6.6.3-41 は、長さ l_1 及び l_2 の 2 本のはりが曲り角 で接続されている場合について、2 本のはりの曲がり角をパラメータとし、曲がり角に対する一次振動数の変化を示したものである。実線は、8.4 の丸棒鋼および 1 インチガス管を用いて実験した結果の平均値、点線は理論式から求めた曲線である。</p> <p>詳しくは、下記参考文献を参照のこと。 斎藤良造,小堀与一 ,「火力発電所配管の振動解析」,日立評論 別冊第 37 号,火力発電機器特集号,昭和 35 年 7 月, pp87 - 92.</p>